

「出産」はどのように研究されてきたのか

——出産をめぐる社会的言説の検討——

松 本 亜 紀

お産は病気では無い。自然にして当然な生理現象であって、何等特別のものではない。これを特別扱いにするところから、一切の誤りが起る。
(丸山敏雄)⁽¹⁾

はじめに

倫理研究所の創立者である丸山敏雄は、昭和二十三（一九四八）年に上梓した『無痛安産の書』⁽²⁾において、「ただ苦しみが無いというだけでなく、たとえばような喜びの中に、玉のような愛児が産まれてくる、これがほんとうのお産」⁽³⁾であると述べた。

折しも時はGHQによる日本占領統治下にあり、出産においては、それまで一般的であった産婆の介助を受けた自宅出産が不衛生かつ専門性に欠けるとされ、設備の整った医療施設での出産が推奨されるようになった時期である。そんな日本の大きな変動期に、丸山は自らが提唱する出産のあり方を「無痛安産」と呼び、それは「新しいお産の仕方ではなく、人間が地球の上に現れて以来の正しいお産の仕方で、これが普通のお産」であると、

高らかに断言したのであった。

冒頭で紹介したとおり、丸山敏雄は出産を病気とはみなさず、あくまでも自然な営みで特別なことではないと捉えていた。産婦人科医でもなく、妊娠・出産経験を持たない男性である丸山敏雄が提唱した「無痛安産」観が、当時の日本人たちにとって大きな驚きをもたらしたであろうことは想像に難くない。

ではなぜ、丸山はそのような出産観を持つようになったのか。この問いについて、筆者は拙稿「丸山敏雄の「無痛安産」観―「心」を整えて臨む自然なお産」⁽⁴⁾で、倫理研究所創立以前の丸山が入信し、修行を積んで幹部として活躍したひとのみち教団時代の教えによるものと指摘した。つまり、ひとのみち教団の教えにおいてもお産に苦痛が伴うとは考えられていなかったと思われるのだが、同教団がなぜそのような出産観を持つに至ったのかについては、現段階では説明できていない。

だが、この疑問を明らかにする過程において筆者は、出産をめぐる学術的な研究のあり方が何らかの影響を及ぼしているのではないか、という仮説を持つに至った。というのも、学術的には前近代の社会に生きた日本の女性たちの暮らしが記録（史資料）に残されることは少なく、出産という体験もまた議論の俎上に載せられず記録の対象ともみなされてこなかったがために、丸山敏雄が言うところの「人間が地球の上に現れて以来の正しいお産の仕方」が多くの日本人に知られる機会を逸してきたように思われるからである。

このような問題意識を踏まえ、本稿では、出産という女性の主体的な経験が学術的に研究されてこなかった背景をたどり、研究者がどのような視点をもって出産を研究してきたのかを整理する。出産をめぐる社会的言説がどのように作り上げられてきたのかを確認することで、丸山敏雄の「無痛安産」観の理解を深める一助としたい。

なお、出産を介助する役割として一般には「助産」という言葉が多く用いられている。昭和二十三年に制定さ

れた「保健師助産師看護師法」（以下、保助看法と記す）の定義に従えば、「助産」とは、分娩（出産）介助を指し、その専門職である助産師は女性に限定されている。ところが、後に詳述するよう、近年、日本民俗学（以下、民俗学と記す）の分野では、日本において男性による出産介助の事例が報告され、その存在が広く知られるようになってきた。これを踏まえると、現行の保助看法に基づいた性別による助産の定義は民俗学のそれとは合致しない点が多い。よって本稿では、出産を支える存在を出産介助者と表記することを、予め断っておく。

一、民俗学における出産研究の流れ

本節では、日本における出産研究の流れを確認する。

社会学者の白井千晶によれば、日本における出産の歴史の変遷を扱う社会学的研究は一九七〇年代後半までほとんど行われてこなかったという。⁽⁵⁾その理由の一つとして、「出産が生物学的・普遍的・身体的・個人的な行為・出来事として取り扱われ、出産を社会現象として捉える視点に欠けていた」ことが挙げられる。それに対し、人口学・医学史、そして民俗学の分野では、出産を対象とした研究が豊富であった。⁽⁶⁾なかでも、医療化が一般化する前の出産について早くから着目した民俗学は、他の分野に先んじて妊娠・出産・育児に関する事柄を産育と呼び、これまで多くの出産や育児に関する習俗や民俗事象に関する資料を数多く収集・蓄積してきた歴史がある。

民俗学 (folklore) とは、「世代をこえて伝えられる人々の集合的事象によつて生活文化の歴史的展開を明らかにし、それを通して現代の生活文化を説明する学問」⁽⁷⁾であり、日本においては柳田國男を中心に一九三〇年代半ばに成立した学問分野である。民俗学における産育調査の成果は、各都道府県史や市町村史に詳しくその報告は